

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 15 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370009

研究課題名(和文) 古典期アテナイにおける哲学史編纂：フィロソフィアを巡る系譜論的視座の形成

研究課題名(英文) The Historiography of Philosophy in Classical Athens

## 研究代表者

和泉 ちえ (IZUMI, CHIYE)

千葉大学・人文社会科学研究科(系)・教授

研究者番号：70301091

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、古典期アテナイにおいてフィロソフィアをはじめとするギリシア的諸学問を巡る系譜論的視座が如何に形成され変容したのか、その諸展開の細部を文献学的論拠と共に全面的に再検討した。ペリパトス学派に由来する哲学史の枠組みを敢えて前提に据えずに原典資料を精査することを通して、【1】フィロソフィアの起源をイオニアに求めるペリパトス学派的哲学史の形成過程とその特異性を明らかにすると共に、【2】アカデメイアをはじめとする他の諸学派が展開する学問系譜論の各々と詳細に比較分析し、【3】ギリシア世界における学問文化勢力地図の変容の細部を、古典期アテナイという文脈に則して詳述し総合的に検討した。

研究成果の概要(英文)：This study explores how the historiography of philosophy might have appeared and transformed in classical Athens. The peripatetic historiography of philosophy needs to be reassessed seriously; but the more useful clues seem to be obtained from other classical texts including Herodotus, Thucydides, Euripides, Demosthenes, Isocrates and Plato. These texts provide a number of evidence which seems to contradict the peripatetic view that the philosophy might have been originated from Thales of Miletus. The range of historiography of cultural roots observed in those texts might be suggest the particularity of the peripatetic view of philosophy and also the balance of power between classical Athens and Macedonia.

研究分野：古代ギリシア哲学・科学思想史

キーワード：ギリシア哲学 古典文献学 哲学史編纂 ペリパトス学派 タレス 哲学原論・各論 アテナイ

## 1. 研究開始当初の背景

アリストテレス『形而上学』A巻が描出するギリシア哲学史は、古代の学説誌家を経て尚今日に至るまで、哲学者および哲学それ自体の系譜の正統性に関する基本的枠組みを提供する。哲学者 (philosophos) の呼称と共に古来学説誌に名を刻む者は皆、『形而上学』A巻に登場する哲学者群を核に据える一大系図へと直接間接的に収斂し、また哲学 (philosophia) という営為の規範、すなわち何が哲学であり何が哲学ではないのか、その線引きに関する一つの指標を哲学者の系譜に基づき端的に提示したのもアリストテレス『形而上学』A巻であった。

しかし何故にアリストテレスは敢えてミレトスのタレスを「哲学の創始者」に据え、ギリシア哲学の系譜論的見取り図を描出したのか。その背景に踏み込むギリシア哲学史研究の諸成果は、国内のみならず国外においても極めて乏しい。このような状況は、歴史や文学のジャンルに表層的に分類される古典文献を考察対象から除外する傾向にある従来の哲学研究のあり方を、少なからず反映するといえよう。歴史的な文脈に着目するよりもむしろ学説誌相互の文献学的比較検討作業に重点を置くギリシア哲学史研究の典型的な手法も、その一端を物語る。

これまで申請者は、古代ギリシアにおける自然探求・数学的諸学科・哲学相互の関係について、プラトンおよびピュタゴラス学派をはじめとする個々の文脈に則して考察を重ねてきたが、派生する諸問題の本質を見極めるためには、ペリパトス学派に由来する哲学史の成立過程およびその特異性に関して全面的に検討を加える必要があることを、日々の研究の中で痛感している。この問題に関連する最近の主要先行研究としては、例えば L. Zhmud(1993, 1998, 2001, 2006)あるいは J. Mansfeld(1990, 1997, 1998, 2002)等があるが、これらのギリシア哲学史研究は、学説誌

相互の文献学的比較検討作業に基づく堅実な成果を提供しこそすれ、ペリパトス学派に由来する哲学史の枠組みそれ自体の根拠を考察対象に据えることはない。

これらの先行研究の諸成果に検討を加える基礎作業を継続しながら、本研究は更に考察の射程を古典期アテナイという文脈に拡げ、従来のギリシア哲学史研究が等閑視する傾向にあるヘロドトスやトゥキュディデス等から看取される当時の文化勢力地図の力学関係を、歴史学研究の諸成果を批判的に分析しつつ個別のかつ総合的に精査し、ギリシア史およびギリシア哲学史研究双方の領域にとって有益な諸前提および座標軸を全面的に再検討する。この作業を通して得られる知見に基づき、フィロソフィアをはじめとするギリシア的諸学問を巡る系譜論的視座の生成と変容の過程に関して精緻かつ包括的な分析を加えると共に、古典末期のリュケイオンで編纂されたペリパトス学派由来の哲学史の意義およびその特異性に関する議論を新たな角度から展開する。本研究は新しいギリシア哲学史の姿を描出するために有効な座標軸を、哲学・歴史学・文学それぞれの表層的領分に拘泥することなく、それらが相互に密接に関連し合う古典期アテナイの古典諸文献の総体を視野に入れて描出し、ギリシア哲学史の新しい地平を切り開くことを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究は、古典期アテナイにおいて、フィロソフィアをはじめとするギリシア的諸学問を巡る系譜論的視座が如何に形成され変容したのか、その諸展開の細部を文献学的論拠と共に全面的に再検討することを第一の目的とする。ペリパトス学派に由来する哲学史の枠組みを敢えて前提に据えずに原典資料を精査することを通して、(1) フィロソフィアの起源をイオニアに求めるペリパトス学派的哲学史の形成過程とその特異性を

明らかにすると共に、(2) アカデメイアをはじめとする他の諸学派が展開する学問系譜論の各々と詳細に比較分析し、(3) ギリシア世界における学問文化勢力地図の変容の細部を、古典期アテナイという文脈に則して詳述し総合的に検討する。かかる作業を通して、ペリパトス学派の史的座標軸を相対化しうる、新しいギリシア哲学史の見取り図を、古典文献学的論拠と共に構築することを目的に据えた。

### 3. 研究の方法

本研究の具体的課題は、以下の6項目に要約される。(1) ペリパトス学派によって組織的に展開されたギリシア哲学史編纂作業の全体像の解明、(2) イソクラテスをはじめとする弁論家諸家が提示するギリシア的諸学問の系譜論的見取り図の再検討、(3) プラトン諸対話篇から看取されるアテナイにおける学問受容の諸断面と諸学問の系譜論に関する分析、(4) トウキュディデスが提示するアテナイ文化史に関する考察、(5) ヘロドトスが提唱するギリシア文化の異民族起源説とペリパトス学派の哲学史の枠組みを巡る比較検討、(6) 上記の諸論点を踏まえ、フィロソフィアをはじめとするギリシア的学問伝統を巡る系譜論的視座が古典期アテナイにおいて如何に形成されたのか、その全体像に関する包括的解明。

上記課題を巡る諸論点を整理し、その各々の観点から原典テキストを精査する作業を蓄積すると共に、古典文献学の方法論を踏まえながら新しい解釈を提案し、独自の哲学的考察を展開した。

### 4. 研究成果

上記(1)に関しては、F. Wehrli(1967-1969)によって編集されたペリパトス学派の諸証言を踏まえながら、L. Zhmud(2006)およびW. Fortenbaugh(1992)による諸解釈に検討を加え、エウデモス『幾何学史』・『数論史』・『天文学史』とテオフラ

トス諸著作に関する断片的証言を精査し、それらをアリストテレスによる関連記述と比較検討することによって、ペリパトス学派が共有する学問系譜論の具体的内容を描出した。

上記(2)に関しては、特にマケドニアに対して相反する態度を表明する二人の弁論家、即ちイソクラテスとデモステネスに着目し、彼らが展開する系譜論的文化論の各々の特徴を吟味し、マケドニアと親密な関係を結ぶペリパトス学派の哲学史の枠組みとの関連性を考究した。

上記(3)に関しては、ペリパトス学派とは対照的に「哲学の起源」を巡る系譜論的見取り図を提唱しないプラトンにおいて、アテナイ周辺諸地域の学問伝統に関する評価は如何なるものであったのか、その手掛かりをプラトン諸対話篇(例えば『法律』・『エピノミス』・『ティマイオス』・『クリティアス』・『ソピステス』・『テアイテトス』・『クラチュロス』・『パイドン』等)の中に求め、マケドニアが抬頭する以前のアテナイを取り巻く文化勢力地図の描出を試みた。

上記(4)に関しては、トウキュディデス『戦史』が描出するアテナイ文化史の特異性を分析し、特にイオニアとアテナイの間に横たわる文化的緊張関係および知的伝統を巡る系譜論的展開を精査した。

上記(5)に関しては、ギリシア文化の異民族起源説を提唱するヘロドトスの歴史観とペリパトス学派の哲学史の枠組みを比較検討し、特にフェニキア人を祖先に持つタレスを敢えて「哲学の創始者」に据えたアリストテレスの動機の在処について多角的に分析した。

上記(6)に関しては、古典期アテナイにおける historiography の展開という文脈の中に当時の哲学史編纂の系譜を位置付けることによって、ペリパトス学派の史的座標軸を相対化しうる新しいギリシア哲学史の枠

組みを提案した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 和泉 ちえ「説得の技法」『理想』第695号  
2015年pp.27-38(依頼論文)

2. 和泉 ちえ「プラトン『ティマイオス』執筆動機を巡って」『ギリシャ哲学セミナー論集』Vol. XII 2015年 pp.47-60 (依頼論文)

3. 和泉 ちえ「男女共同参画は人文科学を変えるか？」『学術の動向』vol.19 No.12 2014年 pp.58-61(招待有)

〔学会発表〕(計4件)

1. 和泉 ちえ 招待講演「人文社会科学における若手研究者養成とジェンダー」日本学術会議公開シンポジウム 2016年3月5日  
東京都港区六本木 日本学術会議講堂

2. 和泉 ちえ 招待発表「ザ ロング アン  
ド ワインディング ロード：プラトン『テ  
イマイオス』執筆動機を巡って」第18回ギリ  
シャ哲学セミナー 2014年9月14日 東京都  
品川区大崎 立正大学(品川キャンパス)

3. 和泉 ちえ 招待講演「男女共同参画は人  
文学を変えるか？」日本学術会議主催学術フ  
ォーラム 2014年5月31日 東京都港区六本  
木 日本学術会議講堂

4. 和泉 ちえ 招待講演「フィロソフィアの  
方法論とイソノミア(平等性)の原理」第72  
回日本哲学会大会 2013年5月12日 東京都  
文京区大塚 お茶の水女子大学

〔図書〕(計1件)

1. 和泉 ちえ (共著)『アリストテレス全集  
12 小品集』2015年 岩波書店 総頁数 431  
頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 和泉 ちえ (IZUMI, Chiye)  
千葉大学・人文社会科学部研究科・教授

研究者番号：70301091

(2)研究分担者 なし  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者 なし  
( )

研究者番号：